

# 中国におけるレッドツーリズムに関する一考察

## A Preliminary Examination on Red Tourism in China

王張璋

Zhangzhang WANG

### Abstract

Based on a survey of literature and data, this paper discusses the historical development of ‘red tourism’ to illustrate its driving forces. ‘Red tourism’ refers to tourism relating to the historical heritage of the Chinese Communist Party, which as a form of patriotic education has been implemented as a national policy from 2005 for improving economic growth and strengthening communist ideology. This paper shows how the celebration of the 100<sup>th</sup> anniversary of the founding of the Communist Party of China has accelerated the development of red tourism in China. This paper also argues how young people have become a new force in ‘red tourism’ by interacting with ‘guochao (national wave)’, a nationalism-driven consumption trends of generation Z.

Keywords: レッドツーリズム（紅色旅遊）、愛国主義教育、Z 世代、国潮

### 1.はじめに

レッドツーリズムは中国語の“紅色旅遊”から訳されたものである。百度百科（中国検索エンジン“百度”のオンライン百科事典）によれば、“紅色旅遊”とは中国の民族精神を弘めることがテーマである旅行活動と記してある<sup>1)</sup>。中国は今年に入って、コロナ感染者は出るものの“ミニロックダウン”等の対策により、短期間で感染をゼロに抑え込んでいるため国内旅行は許されていた。中国国家機関の文化和旅遊部の最新データによると 2021 年上半期の国内旅行者数は延べ 18.71 億人であった<sup>2)</sup>。2020 年より 100.8%増、コロナ前である 2019 年の 60.9%にまで回復した。総消費額は 1.63 万億元（9 月 22 日のレットで 1 万円≒591 元）、2020 年より 157.9%増加し、2019 年の 58.6%に回復したとしている。中国の三大旅行ネット予約プラットフォーム（“携程”、“同程”、“去哪儿”）はレッドツーリズムに関するビッグデータも公表しており<sup>3)</sup>、“携程”は 2021 年上半期にレッドツーリズム観光地の予約件数が前年より 2 倍増加、20 代と 30 代を合わせると全体の 7 割を占めている。そのうち 20 代旅行者は 2019 年に比べ 40%増加、さらに 10 代は約 2 倍に増えている。家族連れの 3 割はレッドツーリズムを選択しているという。“同程”は旅行の出費において“Z 世代”（13 歳から 27 歳まで）は全体の 6 割を占め、旅行者の中でもっとも多い年齢層であった。“去

哪儿”は 2020 年当該プラットフォームの一人あたり消費額は 1287 元になり、2023 年にはレッドツーリズムの市場規模は 1 万億元を突破する試算であるという。コロナ禍で旅行業界が大きな影響を受けながらも、レッドツーリズムは好調ぶりを見せている。

本論文では先行研究や最新データ資料を参考しながら、レッドツーリズムの歴史と発展を考察し、好調の背景と今若い世代が好む要因を探っていくとする。

### 2.レッドツーリズムに関する政策と先行研究

2005 年 12 月に中共中央弁公庁と國務院が「2004-2010 年全国紅色旅遊發展計画綱要」（以下、「綱要」）を公布した<sup>4)</sup>。これはレッドツーリズムが初めて国の政策として正式に推進された。綱要には「レッドツーリズムは、中国共産党が指導した人民革命戦争で偉大な功績を残し、形成された革命老区やシンボルを資源とし、その中に含まれる革命の歴史、民族精神、革命精神を媒体とし、組織的に観光者を招き入れて、参観、イデオロギーを学ぶなどの観光テーマ活動を主に指す」と定義している。目的としては、①社会主義現代化発展に向けた愛国主義教育、②革命歴史、文化遺産などの保護、③革命聖地での経済発展、④観光業の新しい経済成長点として発展させる、の 4 点である。さらに「綱要」では、①2010 年までに、18%のレッドツーリズム観光者増加率を達成すること、②重点レッドツーリズム

観光地区を 12 か所、30 本の観光ツアールートを整備し、100 か所前後の観光スポットを作ること、③年間観光客数 50 万人を超える観光スポットを 80 か所達成すること、④レッドツーリズムを産業化することにより革命聖地の有力産業として成長させること、⑤レッドツーリズムの総収入を 1000 億元、直接就業者 200 万人、間接就業者 1000 万人を達成すること等、具体的な目標を掲げている。これらの「綱要」の内容を見るとレッドツーリズム公布当初中国政府の狙いとしては政治面での愛国主義教育と経済面の地域活性化が主な目的だった。

レッドツーリズムの先行研究に関しては日本国内では僅かあり、例えば百武仁志は、レッドツーリズムは中国のドメスティックな研究分野であることから、中国学者の研究文献と上海の観光事例を分析した上で、レッドツーリズムの図式（図 1）を作成し、定義をこのように述べた。“レッドツーリズムとは中華人民共和国を成立させるために起こった革命に由来する地域を観光するものであり、ここでは革命精神を学び、中国式愛国主義教育を受けるものである”<sup>5)</sup>。一戸信哉はレッドツーリズムをダークツーリズムの視点で捉え直し、戦争や災害をはじめとする人類の悲しみの記憶を巡る旅として日本人にも共感できる部分はあるものの、アクセスの難しさのわりに、見どころのインパクトは弱く、外国人には難しい観光であると指摘した<sup>6)</sup>。李明伍は観光の持続可能性の観点からレッドツーリズムは政府体制による要素が強く、根本的に脆さがあると分析している<sup>7)</sup>。

レッドツーリズムの図式

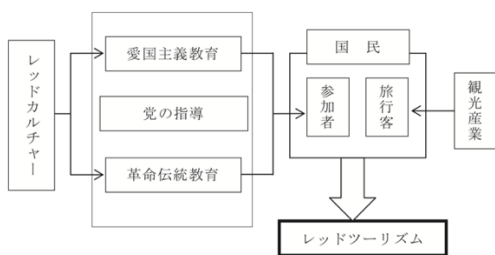


図 1 百武仁志 (2015) 「レッドツーリズムとは何か」日本国際観光学会論文集第 22 号, 第 206 頁

### 3. レッドツーリズムの歴史と背景

前述のようにレッドツーリズムは「綱要」によって 2005 年から実施されたが、その雛形は 1960 年以前に遡る。張恩華によると「長征の足跡をたどる」(長征: “紅軍” 現人民解放軍が江西省から陝西省までの 1 万 2500 km を徒歩で

移動したことをいう) 活動は 1950 年代以降、断続的ながらも重要な活動として位置づけられ、多くの人々が実際にそれらの場所をたどる体験を繰り返してきた、それらの営みの延長線上に、現在のレッドツーリズムも位置づけられるという<sup>8)</sup>。この「長征の足跡をたどる」活動は今のレッドツーリズムにもよくある体験の一つだ。“紅軍” の服を着て、“紅軍” が歩いた道路を辿り、“紅軍” がかつて食べたご飯を体験するというものがこれに近い形をとっている。その後中国は 1960 年代に入ると文化大革命が始まり、国が混乱に陥った。毛沢東思想を信奉する学生たちが紅衛兵を結成し、官僚や地主、文化人に対し吊し上げを行った。次第に紅衛兵の活動は過激化し、毛沢東指示のもと都市部の青年に“上山下郷運動”<sup>9)</sup> が起こった。半強制的に青年たちに学業をやめさせ、農村で肉体労働をしながら、毛沢東思想を叩き込むものだった。“上山下郷運動” は半強制であり、行き先は貧しいため、レッドツーリズムとはほど遠いが、行き先で愛国主義教育を受けるという面では似ていると言える。すなわち国を運営する上で、一つの手法としてどの時期にもあり伝統的なものと筆者は考える。1976 年文化大革命が収束し、疲労しきった中国経済を立て直すために鄧小平は“改革開放”を開始することによって市場経済体制への移行を試みた。この“改革開放”の効果は明らかであった。北京、上海などの大都市や、東から南沿海部都市の急成長とともに、農村との格差が広がった。百武仁志によれば「2000 年に中国観光報が『なぜ英雄都市の“レッドツーリズム”がさびれるのか』という記事を掲載し、それが契機となってレッドツーリズムというタイトルが多く現れてくるようになった」とレッドツーリズムが提唱されたきっかけを述べている<sup>10)</sup>。

レッドツーリズムの歴史を見ると、元々は中国共産党の基本思想から実施していた愛国主義教育であったものが、近代盛んになってきた観光業と融合させたものと考えられる。したがってレッドツーリズムの歴史をこのように分けることができる。1960 年以前は雛形時期、1960 年から 1994 年は特定な人に向けた愛国主義教育、再教育として実施。1995 年から 2005 年は市場化時期、2005 年からは愛国主義教育を旅行しながら学び、体験することができる経済活動として確立した。

### 4. レッドツーリズムの発展

中国は 5 カ年計画（五年毎に計画を立て、国を運営している）を実施しており、レッドツーリズムも同様である。2005 年の正式公布から、「2004-2010 年綱要」「2011 年-

2015年網要」「2016年～2020年網要」によって内容を更新しながら、発展してきた。この網要は国家政策であり、各地方政府（文化旅遊庁・局が主に実施、図2）が主体となって、十分に地域の紅色資源を発掘し、利用率を上げる責任があると定められている。また、中央政府は地方に対し政策支持と方向性の指導のほか、施設の建設費用とメンテナンス費用、インフラ整備等の投資費用は中央地方共同負担とし、かつ特別資金や補助金を別途支給するなどの方針も出している。

#### レッドツーリズムの推進と責任主体

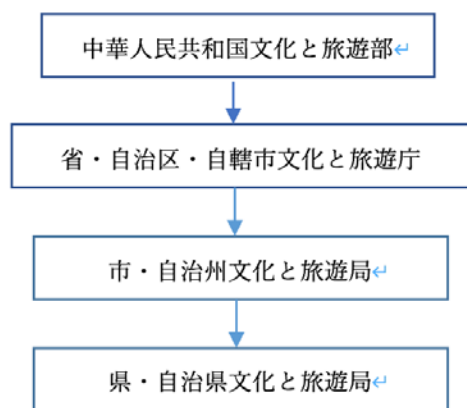


図2 中国文化と旅遊部 HP により筆者が作成

中国メディアの報道によると、2005年中央財政部は、48か所の紅色プロジェクトの建設と改造に特別資金7億元、2016年には15.47億元を出している。使用範囲も建設と改造から、人材育成、企画、宣伝に拡大している。2017年交通運輸部「全国紅色旅行公路計画」はレッドツーリズム関連の道路建設と整備を2020年には総距離2442kmまで延長すると発表している<sup>11)</sup>。

中国文化和旅行部のデータによると、レッドツーリズム旅行者数は2004年の1.4億人から2019年の14.1億人に増加し、全国旅行者数の1/4を超えたとしている<sup>12)</sup>。旅行者数が10倍になった原因は、近年の経済力向上により、国民が余暇に使う時間とお金の増加が上げられるほか、背後には国の全面的なバックアップと地方政府の推進による、紅色観光地の増加も関係すると考えられる。1996年～2017年の間に、428か所の愛国教育示範基地が国の認定を受けた。2016年に300箇所のレッドツーリズム観光スポット（以降紅色スポットと言う）が認定された。さらに地方政府は紅色スポット以外に、紅色展示会、紅色演劇、ショーなどイベント的なものも積極的に推進されている。今年5月19日、中国共産党建党100周年革命文物の保護

状況を紹介する記者会見で、国家文物局副局長の顧玉才が全国で革命博物館、記念館が約1600所、移動不可革命文物が3.6万か所以上、所蔵文物は100万件を超えた。2018年～2020年に革命文物の展示会は4000回を行ったと紹介している<sup>13)</sup>。

“紅色スポット”というものは中国全国各地に点在している。「全国紅色旅遊經典景区300」（以降「景区300」と省略）<sup>14)</sup>のリストをもとに筆者が整理した結果、もっとも多いのは革命戦争の遺跡、複合景区（いくつかのスポット合わせて認定されるケース）が172カ所、記念館58カ所、展示館16カ所、博物館8カ所、それから天安門広場を代表とする広場や公園は26カ所、烈士霊園15カ所と教育基地5カ所となっていた。首都北京はトップの15カ所、金融の中心地である上海は7カ所、中国8大革命根拠地がある省は9～14カ所認定されていることが分かった。

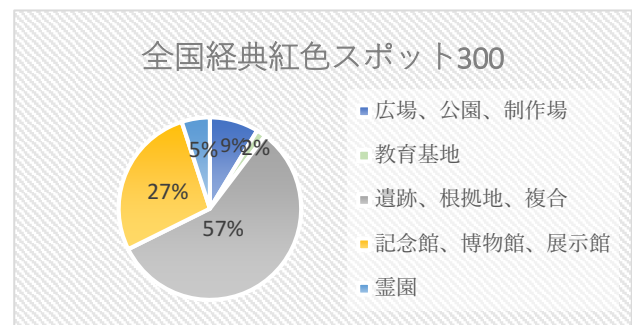


図3 「全国紅色旅遊經典景区目録」をもとに筆者作成

さらに2021年5月に国家機関の文化和旅遊部が「建党百年紅色旅遊百条精品線路」（共産党建党百年を機にオススメの100本レッドツーリズムコース、以下「100コース」と省略）を公布した<sup>15)</sup>。党の重大事件を反映できる紅色スポットを選抜し、100のテーマに沿って作られたコースである。この100テーマは大きく3つに分類される。

- ① “紅色歴史を振り返る、奮闘精神を伝承する” コース 52本。主に中国共産党が各時期において重要な歴史と、建党以来100年間において国民の幸福、中華民族の復興に尽力してきた足跡が見られるという。
- ② “大国重器に近づき、中国パワーを感じる” コース 20本（「大国重器」とは中国中央テレビが制作した中国の工業近代化の発展過程を紹介するテレビドキュメンタリーのタイトル、製造とテクノロジーの発展と創新が主な題材）。主に近年科学技術の進歩と経済発展の成果が見られる、国の自信と力を感じられる“という。
- ③ “貧困解消成果を体験し、農村振興をサポートする”

コース 28 本。主に近年の脱貧困、農村振興の取り組みや、生態文明建設の重大成果が見られるという。

三大分類を見ると、①のコースが本来のレッドツーリズムに近い。北京のコースを例にあげるとコース 1 の名称は、“偉大なる征途、歴史が証言する”である。本コースは、主に「天安門広場—人民英雄記念碑—毛沢東記念堂—人民大会堂—中国国家博物館—新文化運動記念館—李大釗旧居—中国人民革命軍事博物館—中国人民抗日戦争記念館—宛平城—盧溝橋—長辛店二七記念館」といったルートを辿る。このコースに設定されている最初の 4 スポットは、外国人旅行者を含め、観光客の中で最も知名度が高く、人気がある場所である。毛沢東記念堂の中には、毛沢東の遺体が安置されており、入館者が瞻仰できるようになっている。人民大会堂では、最高管理機構である全国人民代表大会の議場を見学することができる。新文化運動記念館は、陳独秀、李大釗等による民主主義と科学重視を提唱する革命活動といった新文化運動（五・四新文化運動）の史料が展示されている。これは、中国共産党の結党に繋がる運動であり、李大釗は共産党創設の主要メンバーの一人である。宛平城と盧溝橋は、日中戦争発端の地として日本でも広く知られている。最後の長辛店二七記念館は、1923 年 2 月 7 日に北京長辛店鉄道工人の大規模ストライキから始まり、弾圧で多く犠牲者を出した「二七惨案」と呼ばれる事件の地で、毛沢東は「中国最初の工人運動」と評価している<sup>16)</sup>。このコースのスポットは、全て北京に所在しているため、急げば 1 日で周る事も可能ではある。しっかり見てまわりたいと思えば 2～3 日は必要とする。実際、中国のどの旅行プラットフォームを検索してもこのコースをそのままツアーにしたプランはなく、あくまでもテーマに沿って紅色スポットを抜粋し、コースにしたというものだった。さらにこのコースを「景区 300」と照合したところ、人民英雄記念碑、毛沢東記念堂、人民大会堂、李大釗旧居、長辛店二七記念館が入っておらず、これらは新しいスポットとしてレッドツーリズムに追加されたことがわかった。これは、本来のレッドツーリズムの拡大を意味する。

分類②と③では大国の自信と力の展示、農村振興成果の強調がテーマとなっている。例えば名称“科学の光、強国の道のり”というコースでは、「中国科学院大学“兩彈一星”記念館—中国科学院力学研究所風洞實驗室—中国科学院物理研究所黨員教育基地—中科院維智慧科技館—中国科学院力学研究所党建基地」が選ばれている。名称“盛世中国、オリンピックで夢を叶える”というコースでは「北京オリンピック公園—北京オリンピック森林公園—国家速滑館“冰丝带”—延慶区国家高山スキーセンター—国家雪

スキーセンター—河北省張家口市崇礼区国家スキージャンプセンター—国家冬季兩項センター（2022 北京冬オリンピック会場）」が入っている。こうした農村振興とスポーツ振興などといったテーマをレッドツーリズムに取り組み合わせたことで、本来のレッドツーリズムの定義である革命戦争ゆかりの地とは異なった内容が入っている。従ってここからレッドツーリズムの概念も大きく変わってきたことがわかる。

## 5. レッドツーリズムのスタイル

レッドツーリズムにおける紅色スポットのほとんどは、辺鄙でかつ貧しい地域に位置していたため、アクセス上自発的な旅行、特に家族連れには不向きであった。内容も類似していて、一度訪れたとしてもリピートは期待できない。言い換えれば“紅色”だけでは旅行の楽しみを満足することは難しい。それを改善するために、一方中央・地方政府がインフラ整備と地域経済活性化に力を入れている。もう一方では、レッドツーリズムをほかの業態と融合させたものが多くなってきた。中国文化和旅游部は、2016 年 6 月に発表された「レッドツーリズムによる貧困救済・富裕化のモデル型」（紅色旅遊扶貧富的模式類型）の中で、①紅色+緑、②紅色+古、③紅色+郷といったモデルを提示している。①では「赤の舞台で緑が踊る」という形で、緑を自然とし、奇麗な山水とのふれあいを導入すること、②では地域の古くからの伝統文化とのふれあいを導入すること、③では郷村観光的な要素を導入すること、などが強調されている<sup>17)</sup>。さらに中国文化和旅游部資源課課長の単鋼新が 2021 年第一四半期の記者会見で“紅色+緑”、“紅色+郷”を繰り返した上、新たに“紅色+研学”、“紅色+科学”、“紅色+文化創意”などを提示し、レッドツーリズムを他の業態と融合させる重要性を説明した<sup>18)</sup>。

“紅色+研学”の“研学”とは、学校や私営教育法人が学年やクラス単位で企業や博物館、野外などに行き、教育活動を行うことを指す。中国教育部が公布したデータによると、2020 年まで全国各類学校は 53.71 万校、在校生は 2.89 億人に達した<sup>19)</sup>。紅色スポットは学生（小学校～大学）の研学は原則として入場料免除のため<sup>20)</sup>、彼らの訪問によって、食事、宿泊、お土産などによる消費による経済への貢献は大いに期待される。“紅色+科学（テクノロジー）”は上で述べた「100 コース」の大分類②のように、中国科学院といった最高研究機構のほか、衛星・航空基地、機械製造企業、デジタルタウン、

北京大興国際空港、港珠澳大橋等といった建設・製造大  
 国の科学力を体感できる場所が紅色スポットとして認定  
 されている。また、“紅色+文化創意”は愛国主義教育を  
 文化、芸術と融合させ、展示会や演劇などの形で提供す  
 るものである。もともと20世紀80年代から中国に“旅  
 行演芸”という、旅行先で演芸を楽しむスタイルがあっ  
 た（なかでは劇場型、実景（実際の風景に復元）型とテ  
 ーマパーク型の3タイプに分かれる）。従って“紅色+文  
 化創意”は自然な流れである。これには定期的なものと  
 短期的（イベント）なものがある。定期的なもので知名  
 度が高いのはテーマパーク型の“中国出了個毛沢東”と  
 実景型の“井崗山”，それから劇場型の“紅色娘子軍”が  
 あげられる。“中国出了個毛沢東”は毛沢東が革命前から  
 中国建国後まで作り上げた功績を1.83万平方メートルの  
 露天ステージ上で劇として復元し、舞台効果、4D技術、  
 プロジェクターマッピングなどを用いた90分間に及ぶ大  
 型演出である。2013年の初開演から2020年までに延べ  
 鑑賞者数200万を超えた<sup>21)</sup>。“井崗山”は毛沢東が指揮  
 している中国労働紅軍が韶山市井崗山で最初の革命根拠地を  
 築いた時の歴史を演劇にしたものである。2008年の開演  
 から2018年まで、延べ鑑賞者数300万を超えた<sup>22)</sup>。短  
 期的な演芸はいろんな趣旨で企画されており頻繁に行わ  
 れる。特に大型連休に合わせて開演する特徴があり、中  
 国文化和旅遊部のデータによると、今年5月の“五一勞  
 働節”（メーデー）の5連休で全国旅行演芸は延べ1.4万  
 回開演され、鑑賞者数は600万人を超えた<sup>23)</sup>。

## 6.中国江西省のレッドツーリズム

中国江西省は“紅色旅遊江西样板、江西風景独好（全国  
 レッドツーリズム江西示範モデル、江西の風景は格別に  
 いいブランド）”というスローガンを掲げており、歴史、影  
 響力と実績からして、レッドツーリズム研究に適当なケ  
 ースと考え、事例にあげた。江西省は中国内陸部、長江中流  
 に位置し、人口は4500万の省級行政区、北部の景德鎮市  
 は古くから陶磁器の生産地として日本では知られている。  
 “紅色”に関しては、江西省の井崗山市は毛沢東が最初  
 に築いた革命根拠地であり、瑞金市は当時の中華ソビエ  
 ト共和国臨時政府が設置したゆかりの地である。江西省に紅色  
 スポットは多くありレッドツーリズムが盛んである。江西  
 省には「100コース」のうちの5コース、「景区300」の  
 うち11か所がある。2016年、江西省のレッドツーリズム旅  
 行者数は延べ1.43億人、総数の11.7%を占めており、省  
 内旅行者のうち3割はレッドツーリズムが目的だとい

24)。

まず政策面では、政府が公布した「江西省旅行産業高質  
 量發展三年行動計画」（旅行産業3年計画）の中でこのよ  
 うな政策を出している。①観光スポットの体制改革を実施  
 する。観光スポットの所有権、経営権、管理権を三権分離  
 させ、運営を一本化する。②観光資源を整合し、集中させ  
 ることによって資源を最大化する。観光企業の上場、合併  
 を積極的に誘導し、企業の集団化を促進する。③業態間の  
 融合を推進する。④毎年投資額10億元を超える新しい観  
 光スポットを2～3か所増やす<sup>25)</sup>。これらの指針から、  
 レッドツーリズムは基本的に政府の計画のもとで、民間企  
 業を誘致し、指導しながら行う経済活動であると読み取れ  
 る。三権分離で民間企業の自主経営権を尊重しつつも、企  
 業の規模を大きくする役目があるという密接不可分な関  
 係にある。一つ例を挙げると、江西省政府が推進している  
 “一部手机游江西”というオンラインプラットフォームがあ  
 る。これはビッグデータを用いて、旅行に関するあらゆる  
 情報を観光客の携帯で確認できるアプリだ。観光客が旅  
 行前、あるいは旅行中にこのアプリで道路の渋滞や、観光  
 スポットの待ち時間、さらには観光スポット内の監視カメ  
 ラで現場確認ができる。江西省政府は、すべての4A級（観  
 光スポットの国家認定が1A～5Aまであり、5Aが最上級）  
 以上の観光スポットに、アプリと連動した改札や監視カメ  
 ラなどの整備を義務づけている。2020年までに整備が完  
 了した観光スポットには、15万円の補助金を支給し、未  
 実施の場合、勧告後ランクの格下げ、または取り消しの措  
 置をとるとしている<sup>26)</sup>。

政府と民間企業の連携事例として、最近話題になってい  
 る江西省の“延安紅街”を上げる。これは不動産業のワン  
 ダ・グループが2018年12月に江西省延安市政府と契約  
 し、前者が40億元を投資しワンダー・グループ初の紅色  
 テーマパークとして建設に至った。中には“紅色テーマ商  
 店街”、“紅色テーマ室内パーク”、“紅色テーマ劇場”  
 と複数のホテルが盛り込まれ今年6月にオープンした。初  
 日來場者数が26万人、1ヶ月間の来場者数が200万人に  
 達した。最新のVR技術を取り入れた演劇“再回延安”（再  
 び延安に戻る）は、キャストとの距離が近くイマーシブな  
 演出が話題となり、“延安紅街”は延安政府の“延安紅色  
 旅遊精品線路”にも認定されている<sup>27)</sup>。

その他注目に値するのは、2020年8月に開催した“全  
 国学生暑期樂遊江西”（全国学生夏休み江西に大集合）の  
 イベントだ。全国の在学学生希望者は江西省政府の旅行プ  
 ラットフォームに申し込み、デジタル式の個人チケットが  
 配布され、全ての4A級観光スポットを無料で周ることが

可能である。イベントは全国から 12.09 万件の申込みがあり、開催期間中（21 日間）、1.41 万人の学生と 1.6 万人の同行者が訪れたという<sup>28)</sup>。

また、元祖革命根拠地だった井崗山は“紅色教育”資源を生かし、2017 年 46.17 万人、2018 年には 52 万人の研修者を受け入れている<sup>29)</sup>。“南昌起義”（中国共産党が国民党と決裂し、新たな革命政府を樹立するために 1927 年 8 月 1 日江西南昌市で起こした武装蜂起）の南昌市では学生専用の“紅色研修”貸切り電車が走っていて、毎回千名ほどの学生が南昌市から 4 日間かけて贛州、瑞市、于都の“紅色スポット”を巡り、革命の歴史や精神を学んだという<sup>30)</sup>。

## 7. レッドツーリズム今好調の背景

レッドツーリズムの歴史と発展の部分で述べたように、レッドツーリズムは国家戦略であり、中国共産党は 2005 年から実施してきた。今年は共産党建党 100 周年であるため、各地で記念イベントが行われている。一方で中国は、米中貿易戦争から提唱してきた“内循環”経済対策はコロナ渦によってより強化する動きになっている。このような背景が、レッドツーリズムを元気にさせた前提条件だと筆者は考える。

それから各旅行プラットフォームがそれぞれ公表した 2021 年上半期のレッドツーリズムのデータによれば、“驢媽媽”は前年度より 25%増加、旅行客の内訳は 30 代 29%、20 代 16%、10 代 13%、平均年齢は 28 歳としている<sup>31)</sup>。“曹操出行”（ネット型個人タクシーサービス）は“紅色スポット”を訪れる人は 1.2 倍に増加、中に 18 歳～40 歳は 7 割を占めているという<sup>32)</sup>。この傾向はもっと前に遡っても同じだった。2019 年、コロナ禍以前の正月休みの江西省観光客の内訳は、15 歳以下が 1.6%、16～25 歳は 29.8%、26～35 歳は 20.2%、35 歳以下は全体の約 50%だった<sup>33)</sup>。これらのデータをみるとレッドツーリズムの人気中、若い世代の急増が目立つのである。筆者は若い世代のレッドツーリズムに注目し、旅行の観点から原因解析を試る。

### ① 利便性向上による気軽さ

“驢媽媽”によると、高齢者は自然景色が綺麗な紅色スポットツアーを好む一方、若者は“微旅行”（Citywalk）、家族連れは記念館、烈士霊園、遺跡などの“紅色スポット”を好むという<sup>34)</sup>。国の全面的なバックアップから、インフラ整備、交通手段、共用

施設などが改善されたことで物理的に行きやすくなった。さらに旅行プラットフォームがアプリやビッグデータを活用し、様々な需要に沿ったパッケージ商品を作り出したことで、辺鄙な紅色スポットでも気軽に行けるようになった。

### ② 創新による楽しみ方の増加

レッドツーリズムは国家戦略とはいえ、あくまでも旅行である。だとすれば楽しいものでなくてはならない。前述レッドツーリズムのスタイルで挙げた“紅色+緑”、“紅色+古”、“紅色+郷”、“紅色+研学”、“紅色+科学”、“紅色+文化創意”などのように、“紅色+α”で形態は様々である。統一の“紅色テーマ”のもとで、観光者は自分が行きたい“α”を選び、楽しむことができる。さらに、旅先での予想外の楽しみがあるとより良い旅行になる。旅行プラットフォーム“馬蜂窝”のデータによると、“Z 世代”の約 5 割は最初のレッドツーリズムは歴史博物館を選んでいる。4 割は“紅色スポット”のイマーシブ体験（空間に入り込むような印象を受ける没入型体験）に興味があるという<sup>35)</sup>。博物館で最新の VR 技術や、イマーシブな解説を体験したり、“紅色遺跡”で紅軍の服を着て、紅軍が当時歩いた道のりを辿ったり、伝統の“紅飯”を食べる様子を SNS 用に撮影するといった例がある。さらに、流行りの“劇本殺”（マörderミステリーのような演劇ゲーム、役を演じながら事件を解決していく）を体験し、人気の“紅色グッズ”（革命戦争時代の要素をデザインに取り入れ、マグカップや携帯ケースなど様々な商品がある）をお土産として購入する。こういったαは“Z 世代”の精神面と物質面を満たし、レッドツーリズム好調の要因になっていると考えられる。

### ③ レッドツーリズムの起爆剤となったナショナリズム

中国は 1978 年に改革開放政策を打ち出してから、GDP はアメリカに続き世界で 2 番目となった。中国共産党が愛国主義教育と共に経済成果をアピールすることによって、成功した大国のイメージを国民に持たせ、ナショナリズムが高まりつつあった。すると自信を持った国民がより国を愛することになり、その結果国を支持する表れとして、レッドツーリズムが人気の一因になったと考える。旅行プラットフォーム“同程”のデータによれば、“紅色スポット”消費者の中で“Z 世代”は 6 割を占め、主に北京、上海、蘇州、大連、

## 中国におけるレッドツーリズムに関する一考察

杭州、海口、成都、南昌など都市部出身者である。訪れる観光スポットのランキングは、“紅色遺址・遺跡”、“革命記念館”、“博物館”、“紅色ツアー”、“革命老区深度体験”、“紅色演芸”などになっている<sup>36)</sup>。上記で考察した江西省も同じ傾向にあり、2019年正月に訪れた旅行者の内40.3%は歴史文化、33.5%が自然景観だった<sup>37)</sup> (図4)。“Z世代”にとってのレッドツーリズムは、政府が推進しているから行くだけではなく、ナショナリズムからくる国民としての誇りや自尊心から、もっと歴史を知り、未経験だった革命時代に好奇心を抱き、実際触れてみたいとなったと考えられる。そして“Z世代”の特徴でもあるSNSを用いた発信力が、さらに人をレッドツーリズムに向かわせる風潮を生んだと考えられる。

2019年正月休み観光者の行先における割合

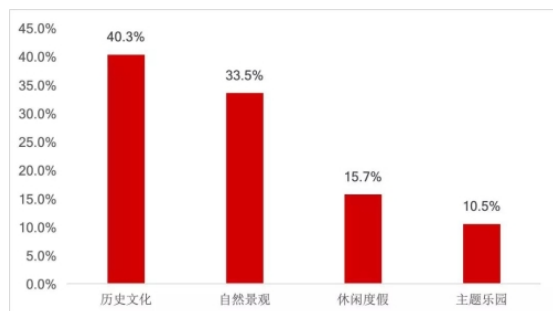


図4 江西省文化和旅游庁(2019)「2019年春节假期江西旅游市场大数据分析」より引用

こうしたナショナリズムと強い関係性を持った例は他にもある。“国潮”というものだ。“国”は中国、“潮”はトレンドを指し、簡単に言うと中国ブランドあるいは中国テイストやデザインを取り入れたものが流行になっていること。代表的なのがスポーツアパレルブランドの“李宁(リーニン)”だ。2018年“李宁”が初めて参加した「ニューヨーク・ファッション・ウィーク」で中国を象徴する赤と黄色を組み合わせたカラートーンに、“中国”という漢字をプリントされた上着を出し、話題を集めた<sup>38)</sup>。その年の売上高は前年より18%増の100億元を突破し、2019年138.7億元、2020年144.57億元と伸ばしていた<sup>39)</sup>。“李宁”に続きその後携帯電話やオモッチャ、化粧品など、違う業界にも“国潮”が広がり、最近ではグルメ、ゲーム、文化遺産などにも“国潮”が話題になっている。大手検索サイト“百度”によると、2009年から2019年の間、消費者が中国ブランドに対する関心度は、10年前の38%から70%に増加し、最も注目度の高い分野は①デジタル製品、

②ファッション、③化粧品、④ドラマ・映画、⑤漫画・ゲーム、⑥音楽、⑦文学、⑧グルメ、⑨文化遺産、⑩テクノロジーであり、その約7割が20代の消費者であった<sup>40)</sup>。中国伝媒大学姚林青教授が発表した「“国潮”熱何以形成」(“国潮”はどのようにして形成された)の記事のなかでは2014年に習近平国家主席が“中国商品は中国ブランドに変換せよ”と提起、2017年から毎年5月10日は“中国ブランドデー”と認定され、2018年にはソーシャルメディアの“微博”(ウェイボー)で“国潮”を検索すると関連インフルエンサーは千人以上がおり、アリババ(B2Bオンラインマーケット)で“国潮”関連ワードの累計検索回数は126億回を超えたなどのことから、2018年は“国潮”人気大爆発の年であり、“国潮”元年と述べている。さらに“国潮”とは、国民が国の現在と将来発展に対する期待感かつ積極的な心理状態とし、民族文化の肯定と文化自信の引揚の現れと説明している<sup>41)</sup>。

一方注目したいのは、国際摩擦や外国メーカーの“辱華”(中国を侮辱した)事件のあとに、中国消費者による不買運動がたびたび起きている。2016年韓国が在韓米軍にTHAADミサイルを配備すると発表したあと、中国でサムソン携帯などにたいする不買の呼びかけが起きた。同様2018年にアメリカが大手通信企業ファーウェイを制裁すると決めたあと、アップル携帯に対する不買呼びかけが広がった。2020年ではサムソンの携帯はほぼ中国市場から姿が消え、アップル携帯の出荷台数は中国で5位に下がっている<sup>42)</sup>。“辱華”事件で有名なのは今年3月に米スポーツ企業のナイキとスウェーデン衣料品のH&Mが、新疆ウイグル綿花生産での強制労働に対し、新疆綿花を使用しないとの声明を出した途端、不買運動が起きた。こうした外国ブランドの購入をやめると同時に国産ブランドを買うという行動はまさにナショナリズムの現れと感じられる。

## まとめ

本論文では、先行研究レビューを通じて、中国におけるレッドツーリズムの歴史、発展の特徴などを概観した。レッドツーリズムは中国の国家戦略であり、中国共産党は政治と経済両方の面から実施してきた。今年共産党建党100周年節目の年でもあり、更なる愛国感情の高まりが予想される。特にZ世代を筆頭に若者がGDP創出の担い手になり、消費を牽引していく存在であるため、レッドツーリズムはまた新しい内容を加えながら、まだ伸びると思われる。

一方、中国は数多い“紅色スポット”がある中、愛国主義教育という統一したテーマのもとで、果たしてどう生き抜くか疑問である。今回の考察で“紅色+α”で順調に経済活性化につながっているように見えるが、“紅色”は国の政策に強く関係しているため、核心竞争力になるのは難しい。αは企業努力が欠かせず、差別化などの経営戦略能力も問われる。レッドツーリズムの持続的な発展は“紅色スポット”の経営実態にも注目していく必要があると考える。

## 注及び参考文献

1) 百度百科「红色旅游」

<https://baike.baidu.com/item/%E7%BA%A2%E8%89%B2%E6%97%85%E6%B8%B8/306424?fr=aladdin>, (2021. 9. 28 閲覧)

2) 中華人民共和国文化和旅游部「2021年上半年国内旅游数据情况」,

[http://zwgk.mct.gov.cn/zfxgkml/tjxx/202107/t20210729\\_926770.html](http://zwgk.mct.gov.cn/zfxgkml/tjxx/202107/t20210729_926770.html), (2021. 9. 17 閲覧)

3) 北京商报「多家旅游企业发布数据红色旅游人数不断大增」

<https://baijiahao.baidu.com/s?id=1703323739455616963&wfr=spider&for=pc>, (2021. 8. 31 閲覧)

4) 國務院弁工庁(2012. 2. 22)公布「2004-2010年全国紅色旅遊發展計画綱要」

5) 百武仁志(2015)「レッドツーリズムとは何か」日本国際観光学会論文集第22号, 第205-206頁

6) 一戸信哉(2019)「中国・陝西省におけるレッドツーリズム(紅色旅遊)について: 西安及び洋県を中心に」

『敬和学園大学紀要論文』人文社会科学研究所年報 = Annual report of Keiwa Liberal Arts Research Institute, (17), 第51-66頁

7) 李明伍(2018)「中国における『持続可能性』と観光の展開」『和洋女子大学紀要』第59集, 第55-56頁

8) 張恩華(2008)「中国の『紅色旅遊』—共産主義から消費主義へ、革命から余暇へ」中国21, Vol129

9) 上山下郷運動(じょうさんかきょううんどう)とは、文化大革命期の中華人民共和国において、中国共産党中央委員会主席毛沢東の指導によって行われた青少年の地方での懲農(下放)を進める運動のこと。「フリー百科事典」

10) 百武仁志(2015)「レッドツーリズムとは何か」日本国際観光学会論文集第22号, 第206頁

11) 模範兴国(2020)「深度解析中国红色旅游行业市场: 2020年收入将近4000亿」

<http://xingguo.yun.jxntv.cn/p/39461.html>, (2021. 8. 31 閲覧)

12) 中華人民共和国文化和旅游部(2021)「四部门联合推出“建党百年红色旅游百条精品线路”

[https://www.mct.gov.cn/whzx/whyw/202106/t20210601\\_924914.htm](https://www.mct.gov.cn/whzx/whyw/202106/t20210601_924914.htm), (2021. 9. 12 閲覧)

13) 中華人民共和国國務院新聞弁公室(2021)「国新办举行庆祝建党百年革命文化文物保护利用情况发布会」

<http://www.scio.gov.cn/index.htm>, (2021. 9. 12 閲覧)

14) 中華人民共和国国家發展和改革委員会(2016)「关于印发全国红色旅游经典景区名录的通知」发改社会[2016]2662号

15) 中華人民共和国文化和旅游部(2021)「文化和旅游部・中央宣传部・中央党史和文献研究院・国家發展改革委関与“建党百年紅色旅遊百条精品線路”」の公告

[http://zwgk.mct.gov.cn/zfxgkml/zykf/202105/t20210531\\_924852.html](http://zwgk.mct.gov.cn/zfxgkml/zykf/202105/t20210531_924852.html), (2021. 9. 13 閲覧)

16) 中国共産党新聞網(2018)「長辛店: 中国北方工人運動の重要揺籃」

<http://dangshi.people.com.cn/n1/2018/0205/c85037-29805304.html>, (2020. 9. 13 閲覧)

17) 李明伍(2018)「中国における『持続可能性』と観光の展開」『和洋女子大学紀要』第59集, 第55頁

18) 中華人民共和国文化和旅游部(2021)「文化和旅游部2021年第一季度例行新聞发布会」

<https://www.mct.gov.cn/vipchat/home/site/2/333/>, (2021. 9. 15 閲覧)

19) 中国青年網(2021)「教育部: 2020年全国各級各類学校53.71万所、在校生2.89億人」

<https://baijiahao.baidu.com/s?id=1693012896216625188&wfr=spider&for=pc>, (2021. 9. 15 閲覧)

20) 中国教育在線(2020)「教育部: 各類紅色旅遊景区点要対大中小學生免費開放」

<https://baijiahao.baidu.com/s?id=1684961528382063990&wfr=spider&for=pc> (2021. 9. 15 閲覧)

21) 湖南省文化和旅游庁(2021)「湘潭市领导调研“最忆韶山冲”和“中国出了个毛泽东”项目」

[http://whhlyt.hunan.gov.cn/whhlyt/news/sxxw/202103/t20210319\\_14900159.html](http://whhlyt.hunan.gov.cn/whhlyt/news/sxxw/202103/t20210319_14900159.html), (2021. 9. 16 閲覧)

22) 江西省文化和旅游庁(2019)「遊“戲”江西——我省旅遊演芸市場十年成長觀察」

[http://dct.jiangxi.gov.cn/art/2019/1/4/art\\_14513\\_496386.html](http://dct.jiangxi.gov.cn/art/2019/1/4/art_14513_496386.html), (2021. 9. 16 閲覧)



## 中国におけるレッドツーリズムに関する一考察

- 23) 中華人民共和国文化和旅游部 (2021) 「“五一”假期全国演出市场迎来高峰」  
[https://www.mct.gov.cn/whzx/whyw/202105/t20210508\\_924330.htm](https://www.mct.gov.cn/whzx/whyw/202105/t20210508_924330.htm) , (2021. 9. 16 閲覧)
- 24) 华夏经纬网「大数据报告发布 江西红色旅游接待量占全国 1/8」  
<http://www.huaxia.com/jxtw/zjx/jrjx/2017/11/5533686.html>,  
 (2021. 9. 16 閲覧)
- 25) 江西省发展和改革委员会(2019)「江西省人民政府办公厅关于江西省旅游产业高质量发展三年行动计划(2019~2021年)的通知 赣州府厅字(201939)号」  
[http://drc.jiangxi.gov.cn/art/2019/6/18/art\\_14689\\_700012.html](http://drc.jiangxi.gov.cn/art/2019/6/18/art_14689_700012.html),  
 (2021. 9. 6 閲覧)
- 26) 江西省人民政府(2019)「加快“推进一部手机游江西”」  
[http://www.jiangxi.gov.cn/art/2019/11/14/art\\_393\\_827462.html](http://www.jiangxi.gov.cn/art/2019/11/14/art_393_827462.html)  
 , (2021. 9. 17 閲覧)
- 27) 中国经济网(2021)「实力圈粉延安红街首月客流超 200 万人次」  
[http://www.wanda.cn/2021/2020media\\_0728/43410.html](http://www.wanda.cn/2021/2020media_0728/43410.html),  
 (2021. 9. 17 閲覧)
- 28) 江西省人民政府 (2020) 「“全国学子暑期乐游江西”活动如火如荼」  
[http://www.jiangxi.gov.cn/art/2020/8/7/art\\_393\\_2695608.html](http://www.jiangxi.gov.cn/art/2020/8/7/art_393_2695608.html)  
 , (2021. 9. 16 閲覧)
- 29) 江西省文化和旅游厅(2019)「井冈山市创建国家全域旅游示范区的经验与启示」  
[http://dct.jiangxi.gov.cn/art/2019/12/26/art\\_14514\\_1300586.html](http://dct.jiangxi.gov.cn/art/2019/12/26/art_14514_1300586.html),  
 (2021. 9. 16 閲覧)
- 30) 江西省文化和旅游厅 (2021) 「让年轻人爱上旅游」  
[http://dct.jiangxi.gov.cn/art/2021/9/9/art\\_14513\\_3567660.html](http://dct.jiangxi.gov.cn/art/2021/9/9/art_14513_3567660.html)  
 , (2021. 9. 16 閲覧)
- 31) 知乎网 (2021) 「驴妈妈旅游网发布“2021 红色旅游”大数据报告, 盘点红色旅游最新现状及发展趋势」  
<https://zhuanlan.zhihu.com/p/386788844> , (2021. 9. 18 閲覧)
- 32) 曹操出行大数据研究院(2021)「曹操红色旅游报告: 同比增长 182.75%, 客群更年轻更自信」  
<https://new.qq.com/rain/a/20210915A0FQBD00>, (2021. 9. 18 閲覧)
- 33) 江西省文化和旅游厅(2019)「2019 年春节假期江西旅游市场大数据分析」  
[http://dct.jiangxi.gov.cn/art/2019/2/13/art\\_14523\\_560452.html](http://dct.jiangxi.gov.cn/art/2019/2/13/art_14523_560452.html),  
 (2021. 9. 16 閲覧)
- 34) 知乎网 (2021) 「驴妈妈旅游网发布“2021 红色旅游大数据报告, 盘点红色旅游最新现状及发展趋势」  
<https://zhuanlan.zhihu.com/p/386788844> , (2021. 9. 18 閲覧)
- 35) 证券日报之声(2021) [马蜂窝“旅游新国潮”报告: 红色旅游最受欢迎]  
<https://baijiahao.baidu.com/s?id=1703981504492431275&wfr=spider&for=pc> , (2021. 7. 7 閲覧)
- 36) 文旅之声(2021)「线上线下齐“助燃”红色旅游更青春」  
<https://mp.weixin.qq.com/s/cBfDxd777vLwVDe6vDBckQ> ,  
 (2021. 8/12 閲覧)
- 37) 江西省文化和旅游厅 (2019) 「2019 年春节假期江西旅游市场大数据分析」  
[http://dct.jiangxi.gov.cn/art/2019/2/13/art\\_14523\\_560452.html](http://dct.jiangxi.gov.cn/art/2019/2/13/art_14523_560452.html),  
 (2021. 9. 16 閲覧)
- 38) 百度 APP 官方百家号「什么是“国潮”? 2021“百度国潮季”定义新国潮」  
<https://baijiahao.baidu.com/s?id=1698628487494465240&wfr=spider&for=pc>, (2021. 9. 18 閲覧)
- 39) 优鞋网「国潮是什么风格、国潮是什么时候兴起的」  
<https://www.usxie.com/fashion/34063.html>,  
 (2021. 9. 29 閲覧)
- 40) 深セン証券交易所「上市公司公告」2018. 2019. 2020
- 41) 姚林青(2020)「人民论坛网」『“国潮”熱何以形成』  
<https://baijiahao.baidu.com/s?id=1655733910045480362&wfr=spider&for=pc&searchword=>, (2021. 9. 29 閲覧)
- 42) 日本経済新聞 (2021) 「20 年中国スマホ出荷 1 割減、減速フェーウェイなお首位」  
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOGM025WE0S1A200C2000000/>, (2021. 9. 29 閲覧)

(提出日 令和 3 年 9 月 30 日)